

サードハンドスモーク（三次喫煙）を ご存じですか？

～喫煙現場にいない第三者にも被害が及んでいます～

近年は「サードハンドスモーク」といって、喫煙現場にいない人にもタバコの煙が三次的被害を及ぼすことがわかってきました。



目に見えない「第三の煙」
サードハンドスモークとは？

近年、「サードハンドスモーク」という新しい概念による受動喫煙の害が注目されています。

近くにタバコを吸っている人がいないのに、部屋に入った時やエレベーターに乗った時などタバコの臭いが気になったことはありませんか？ 実は、タバコは火を消した後にもその成分が吸った方やその場に付着し、受動喫煙が生じます。このタバコの煙の残留物から有害物質を吸うことをサードハンドスモークといいます。タバコの臭いがあるということは、すでにサードハンドスモークによる受動喫煙を受けているということなのです。

■喫煙の種類

- ファーストハンドスモーク（二次喫煙）
吸う方が吸引する煙や、喫煙行為のこと。
- セカンドハンドスモーク（二次喫煙）
いわゆる「受動喫煙」。タバコが燃焼する時に先端から立ち昇る煙（副流煙）や吸う方が吐き出す煙（呼出煙）を吸わされることを受動喫煙という。
- サードハンドスモーク（三次喫煙）
タバコを消した後に残留する化学物質を吸入すること。残留受動喫煙とも呼ばれる。



サードハンドスモークの
健康被害は受動喫煙を上回る！？

サードハンドスモークは目に見えませんが、タバコの煙と同様にニコチンやヒ

素、ベンゼン、ホルマリン、青酸化合物などの有害物質が含まれています。なかでも最も問題視されているのがニコチンです。サードハンドスモークに含まれるニコチンは、大気中の亜硝酸と反応して、発がん性物質である「ニトロソアミン」を生成することがわかっています。

また、受動喫煙に比べて、サードハンドスモークで受けるニコチンは、赤ちゃんや子どもでも6・8倍以上、成人で24倍以上となり、ニトロソアミンについては赤ちゃんや子どもでも16倍以上、成人で56倍とされています。サードハンドスモークの残留期間は長く、数カ月間は消えずに存在するため、受動喫煙以上の悪影響があると考えられています。

サードハンドスモークの例

たばこを吸い終わった喫煙者にも、たばこの有害成分は付着しています。



のほか、喫煙者本人の呼気や指先、髪の毛、衣類などにも潜んでいて分煙では防ぎきれません。いろんなところを触ったり、抱っこされることの多い赤ちゃんやペットは、特に影響を受けやすいといえます。「目の前で吸っていないから大丈夫」ではありません。目には見えませんが、サードハンドスモークにも注意が必要です。